

平成27年 10月 4日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 筑波大学附属駒場高等学校・多尾奈央子
2. 講師氏名: Kristopher S. MCEWON 博士
3. 同行者氏名: 同行なし
4. 実施日時: 平成 27年 10月 3日 (土) 10:30 ~ 12:30
5. 参加生徒: 高校2年生 16人
備考: 総合学習選択講座でサイエンスダイアログ講座を選択した生徒
6. 講演題目: Canada, / Sleep / Psychology
7. 講演概要:
 - ✓ Brief Introduction to my home country(Canada)
 - ✓ Canadian geography and history
 - ✓ Life in Canada
 - ✓ Background and motives for becoming a researcher
 - ✓ Edicational background
 - ✓ Motives for becoming a researcher
 - ✓ What is sleep?
 - ✓ Methods used in sleep research
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
 - (1) 講演時間 90 分 質疑応答時間 30 分
 - (2) 講演方法: プロジェクター使用による講演
 - (3) 通訳: なし
 - (4) 事前学習時使用教材: 講師からの Lecture Outline および Glossary.
10. 学校からの支給経費: 謝金
11. その他特筆すべき事項:

事前資料をいただいた後も再度念を押すために連絡をし、①とにかく専門的内容の説明については日常的な例に当てはめてほしい、②話すスピードはゆっくり、③発話は clear に、④逐一生徒の表情を観察し、理解度確認して再度説明を加えたり、paraphrase したり、ポイントごとに質疑応答の時間を求めてほしいと依頼しました。当日お越しいただいたときに再度同じ内容を確認しました。実際の講義は上記の点をとても意識され、かつ聴取者が高校生であっても専門性の高いものになると、理解が難しくなるので極力日常の例に当てはめて話をしてほしい旨

を伝えた。十分に対応していただきました。

今回は、前回の中学生の回同様に、研究の発端や過程、成果を次の世代に引き継いでいくことの必然性を踏まえた自己完結ではない話し方や講義で、聴取者に理解してもらおうと努める姿勢がうかがえました。今回の講師も自分の携わる研究について、一般の人間に実生活のことと関連付けて、理解できるような言葉で話をし、途中で理解度を確認し、さらにこの研究の必要性は何かをしっかりと分かってもらおうと伝えようと努められました。

穏やかな話し方ではありつつも、生徒の質問には真摯に答えてくださり、とてもよい講義でした。高校2年生の講義は過去3回ございましたが、唯一の良い講義と言えます。テーマが身近なものであったことも大きな要因ですが、講師側がいかにかこの研究が日常に関わり、重要なものであるかを伝えようとするか、聴取者と interact するかも、有意義な Science Dialogue の意義となることが再確認できます。